

(別紙)

令和7年6月定例会議 一般質問【平日議会】

1 番議員 清水 友紀

子どもと高齢者の狭間。隙間のない支援を

国が少子化対策として「子どもまんなか社会」を掲げ、一方で今年は団塊の世代が75歳以上となり、超高齢化社会に突入する年と言われている。本町においても、子育て施策や、後期高齢者支援がますます重要になってくる。

しかし、その狭間にいる人たちに必要な支援は届いているのか。8050問題という、80代の親が50代の子の生活を主に経済的に支える状況を表す社会問題がある。コロナ禍の影響や物価高が加わった超高齢化社会で、この問題が親の60代、70代から90代までと長期化、また深刻化していくことを懸念する。

そこで、地域福祉が行き届かず、経済的な困窮やひきこもり等、負の連鎖から抜け出せなくなる住民がいるような事態を避けるために、以下について町の考えを伺う。

1. 生活困窮やひきこもり等、地域生活課題の相談・支援体制は。
2. 福祉と医療、また、そこに教育を加えた連携の状況は。